

## 今週のメニュー

■ [トピックス](#)

◇技術WGの活動 –その1– 近化協重合部会幹事業務

■ [随想](#)

◇ららら、プラスチック (19) AI アシスタントを使ってみた

元 日本プラスチック工業連盟 専務理事 岸村 小太郎

■ [編集後記](#)

## ■ トピックス

## ◇技術WGの活動 –その1– 近化協重合部会幹事業務

今回は、塩ビ工業・環境協会（VEC）技術WGの1つの活動である近畿化学協会（近化協）の重合工業部会の幹事活動について報告させていただきます。

まず、最初に、同部会の規模としましては、2025年度現在、法人会員18社、学識会員35名となっております。幹事としましては、法人会員より6名、学識会員より、部会長、副部会長を含む4名が選出されています。次に当協会と同部会との歴史について説明致します。随分古すぎて、当協会が近化協同部会に会員として何時加入したかについては不明ですが、50年以上に亘り年1回開催されていた『ポリ塩化ビニール討論会』が2008年の第59回を最後に閉幕となりましたが、1965年開催の第16回から塩化ビニール協会として、同会の共催を開始していることから考えると、1965年頃に同協会に加入していると思われます。既に丸60年が経過しております。2008年に閉幕した『ポリ塩化ビニール討論会』は、塩ビ関連の研究成果の唯一の発表の場でしたが、物づくりの灯りを灯し続け、塩ビ産業の新たな発展に寄与することを目的に2009年より『塩ビフォーラム』と名前を変えて、開催されました。この会も2018年開催の第10回を以て閉幕となっております。

本題の同部会の幹事としての活動は、記録を辿ると2012年には幹事会に参加していることから、少なくとも13年以上、同部会の幹事として、同部会の活動をサポートしています。

同部会の年間行事は、以下の通りです。

- ・ 幹事会（年2回）
- ・ 例会（年1～2回）
- ・ 重合プロセスの基礎講習会（年1回；東京・大阪で交互に開催）
- ・ 重合工学レクチャーシリーズ（年1回）

幹事会は、年間スケジュールの調整、会員企業の入退会の連絡、財務関係等について、1時間程度の会議で、例会等のスケジュールに合わせ、実施されています。また例会と

は、会員企業が持ち回りで、題材を考え、重合プロセス等に係る内容について、講師を招いて講演会を行うもので、この会には同協会会員企業からのみ参加が許されています。重合プロセスの基礎講習会につきましては、同部会に部会長等として参加されている大学の先生方、および現場の第一線で活躍されている技術者の方が、重合プロセスの基礎、最新情報等について、講義頂く内容となっています。この会は、東京、大阪で交互に行われ、今年度は2025年10月27日（月）から28日（火）に大阪で開催されました。2026年度は、東京で開催される予定となっています。重合工学レクチャーシリーズにつきましては、重合反応器の設計からプロセッシングに至るまでの一連のポリマー製造技術について、より深く理解し、さらなる発展を目指すことを目的として継続的に開催されています。今年度は2026年2月4日（水）に大阪で開催されました。

今年度の重合プロセスの基礎講習会に参加させて頂き、その際に、以前、VECに所属されていまして一色氏も「PVC ものづくりの現状と将来—プロセスから製品化」という題目で講演されていまして。1日目終了後に開催されました懇親会で、一色氏とお話する時間があり、VECに関連する昔ばなし等をお聞かせ頂き、貴重な時間を過ごすことが出来ました。

今後も、幹事として参画し、同部会の活動に引き続き協力していき、塩ビに係る技術的な情報収集、および人間関係の構築も併せて行っていきたいと考えております。

（江崎）

## ■ 随想

### ◇ららら、プラスチック（19） AIアシスタントを使ってみた

元 日本プラスチック工業連盟 専務理事 岸村 小太郎

2020年に日本プラスチック工業連盟を退職した後も、古巣の化学会社でアドバイザーを務めているが、最近では忙しい現役社員に代っての情報収集や調査の仕事が中心になっている。

先日は、海外における自動車リサイクルの政策動向の調査を依頼されたが、「自動車は畑違いで・・・」と言いつくしたところ、依頼者から「AIアシスタントを使うと楽ですよ」と言われた。最近、AIや生成AIという言葉は毎日のようにテレビや新聞で見聞きするが、まさかこの自分（今年47歳）が使うことになるとは、想像もしていなかった。

早速、そのAIとやらを使ってみようと、小手調べに、そして面白半分、PCに搭載されている（これまで、搭載されていることすら知らなかった・・・）AIアシスタントに「岸村小太郎の業績は？」と質問してみた。すると、こんな答えが返ってきた。「日本のプラスチック業界の環境政策を実務レベルで牽引した中心人物。資源循環・再生材利用の普及に大きく貢献した専門家。行政・業界・市民をつなぐ橋渡し役・・・」。いやいや、いくら何でも、過大評価だろう！

次に、業界の某先輩についても尋ねたところ、「〇〇を退職後、現在は〇〇大学の准教授として・・・」と出てきたので、「まさか、あの年齢で？」と不審に思い、示されていた出典を調べたところ、准教授は同姓同名の現役世代の人物だった。

依頼された調査の過程で、台湾における ELV（使用済み自動車）規制について AI に質問したところ、「台湾でも EU と同等の ELV 規制が検討されている」との予想外の答えが返ってきた。これも出典が示されていたので調べてみたところ、台湾の大学の研究者による EU の規制についての論文だった。

さて、前回の本欄で、「ずっと心に引っかかっている、やなせたかし氏の作品と思われる短い詩がある。」と書いた。

記憶があやふやだが、だいたいこんな詩だ。

青い空には光があふれ 花も鳥も歌っているよ  
ぼくの翼は小さいけれど 遠くの空まで ひとりで飛ぶよ

高校生か大学生の頃だったろうか。故郷札幌の街を歩いていて、たまたま立ち寄ったテレビ塔（街のシンボル）の土産品売り場で、ミツバチを描いた陶板で飾られた小物入れを見つけた。陶板にはこの詩が添えられ、やなせたかし氏のサインがあったような気がする。その詩がとても気に入り、暫くの間、その場で何度も読み返していた。今であれば、携帯で写真を撮っておくところだが・・・いや、小物入れを買っていたか。

時は流れ、一昨年（2023年）の10月、高校の“古稀記念クラス会”に出席するため、久しぶりに札幌を訪れた。クラス会までの時間、街を散策し、懐かしいテレビ塔にも足を運び、数十年ぶりに展望台にも昇ってみた。そして、かつてそこで出会った例の詩を思い出した。（と書くとドラマチックだが、これまでも時々思い出している）

札幌から帰った後、地元の図書館で「やなせたかし全詩集」で見つけ、全660ページの分厚い本を隅から隅まで調べてみたが、あの詩はみつからなかった。

そこで、AI アシスタントにこの詩の作者を尋ねてみたところ、即座に「やなせたかしさんの詩です」との答えが返ってきた。但し、出典は記載されていない。これまでに何度かインターネットで、“やなせたかし”と詩の一部で検索したことがあるので、AI はその情報からこの答えを出してきたのではと疑っている。

最近では、卒業論文を AI に書かせる学生もいると聞く。正しい情報に裏付けられたものであれば良いが（良くはないか・・・）、上記の台湾や詩の例のような誤った情報をもとに書いたものが“論文”として出してしまうと、それが“出典”として信頼され、誤った情報が拡大・拡散する恐れがあるのでは、と心配になる。AI の利用に当たっては、必ず出典を確認することを心がけたい。

ところで、一昨年に札幌のテレビ塔に立ち寄った際には、土産品売り場も覗いてみたが、さすがにあの小物入れは置かれていなかった。



写真. 晩秋の“さっぽろテレビ塔”  
(2024年10月 筆者撮影)

## ■ 編集後記

下記のスケジュールにて、東京会場と名古屋会場で展示会を開催します。是非、ご来場いただき、できるだけ多くの方にPVC製品の魅力に触れていただきたいと思います。尚、人気投票は展示会終了後に集計してオーディエンス賞（5点）を決定します。奮っての来訪と投票をお願いします！

【東京会場】 GOOD DESIGN Marunouchi（東京都千代田区丸の内 3-4-1 新国際ビル 1F）  
2026年3月2日（月）～ 13日（金）開場 11時～20時（13日 14時まで）

【名古屋会場】 イオンタウン千種（名古屋市千種区千種 2-16-13 イオンタウン千種 2F）  
2026年3月19日（木）～ 21日（土）開場 10時～18時（21日 14時まで）

## ■ 関連リンク

- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)

※本メールマガジン上の文書・画像等の無断使用・転載を禁止します。



■ 東京都中央区新川 1-4-1

■ TEL 03-3297-5601    ■ FAX 03-3297-5783

■ URL <https://www.vec.gr.jp>    ■ E-MAIL [info@vec.gr.jp](mailto:info@vec.gr.jp)

---

---